

葉山（村山市）

（冠字番号）

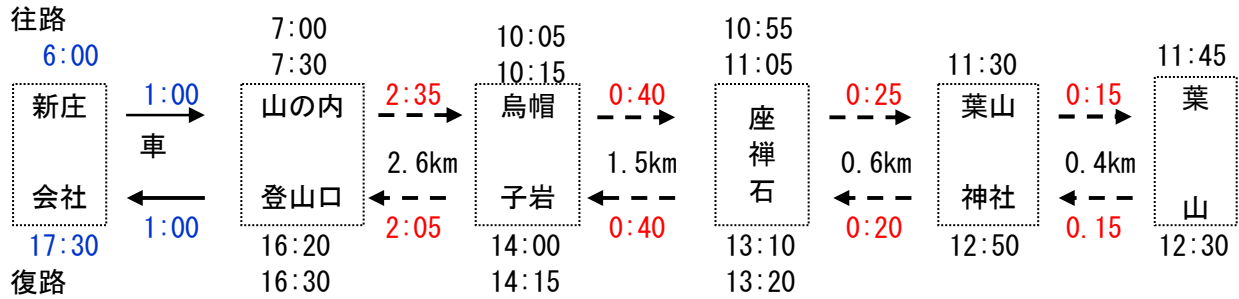
成果 X=-163081.944m
Y=- 54302.356m
標高 1462.06m

世界測地系「測地成果 2011」

点の記抜	選点の埋観	標標測	明治 26 年 7 月 一日 平成 一年 一 月 一 日 明治 26 年 10 月 25 日 平成 8 年 9 月 13 日	選点者 — 埋標者 観測者	真田義啓 — 高井鷹三 金野幸弘
粹（備考）平成 8 年 8 月 6 日更新、高度基準点測量					
所在 山形県村山市大字山ノ内字三町平（16 林班に小班）					

登山日 2016 年 6 月 5 日（日）

コースタイム 全行程 9:30（歩行時間、往路 3:55 復路 3:20 計 7:15）※赤字は所要時間



新緑の稜線・村山葉山を登る・・

今回の登山対象は塩野原基線の三次増大点である葉山（1462m）である。新庄から南の空を眺めると月山の左側にどっしりと聳えている山が葉山である。葉山という名の山は他の地域にもあり、麓の地名をつけて「村山葉山」とか「寒河江葉山」と呼んでいる人も多い。

今回は村山市山の内から葉山山頂を目指すことにした。メンバーはゲストを含めて 3 名である。

早春の葉山



村山市山の内コースを行く・・・

新庄（会社）を午前 6 時に出発する。尾花沢新庄道路の尾花沢 IC から国道 347 号に入り、村山市富並に向かって車を走らす。富並で右折し、富並川と並行して伸びる県道を 5 km ほど進むと「大鳥居」という集落にたどり着く。林道に入る時、行く手を見上げると前方には馬蹄型といわれる葉山の稜線が青空を背景に浮かんでいた。残雪の沢筋と新緑、そして青空。何とも幸先のいいことか、今日の山行への期待がふくらむ。林道は進ほどに道幅が狭くなる。富並川の左岸をさかのぼる。途中、少し広めの路肩に車が停めてあった。その光景が数カ所ほどみとめられた。どうやら溪流釣りの人達のようなのだ。

大鳥居集落からの葉山の稜線・・・



青空に期待がふくらむ・・・

山の内登山口



登山口には先客の車がある・・・

40 数年ぶりの葉山登山 !?・・・

私（筆者）が本格的な登山を始めたのは、山の内口からの葉山が初めてである。山登りの先輩に連れられ、数名の仲間と共に出かけた。初日は沢の傍にテントを張って泊まり、翌早朝に山頂を目指して登ることになっていた。テントを張り終えると先輩は、落差 2m 足らずの沢の深みに川虫をエサに釣り糸を 2 本垂らし、岸の小枝に道糸を結んで置いていた。夕飯が近づいた頃引き上げると両方に 30cm 程の「イワナ」がかかっていたのである。（凄い・・・）と感動したものだ。早速それを串刺しにして焼き、サケの肴にして赤いコップで酒を酌み交わし、初めての山での夜の宴に酔いしれていた。あれから 40 数年の月日が流れた。当時の記憶は薄れたが、初めての登山で葉山に登った事だけは覚えている。

私（筆者）が本格的な登山を始めたのは、山の内口からの葉山が初めてである。山登りの先輩に連れられ、数名の仲間と共に出かけた。初日は沢の傍にテントを張って泊まり、翌早朝に山頂を目指して登ることになっていた。テントを張り終えると先輩は、落差 2m 足らずの沢の深みに川虫をエサに釣り糸を 2 本垂らし、岸の小枝に道糸を結んで置いていた。夕飯が近づいた頃引き上げると両方に 30cm 程の「イワナ」がかかっていたのである。（凄い・・・）と感動したものだ。早速それを串刺しにして焼き、サケの肴にして赤いコップで酒を酌み交わし、初めての山での夜の宴に酔いしれていた。あれから 40 数年の月日が流れた。当時の記憶は薄れたが、初めての登山で葉山に登った事だけは覚えている。

登山口から烏帽子岩へ・・・

山の内登山口に Am7:00 に到着した。10 台程の駐車スペースには先客の車が数台あった。

登山の身支度を調べ Am7:30 に登山を始めた。すぐ「乙女の溪流」という指導標がある沢にたどり着いたが、あの時の沢？なのか定かでない。

沢を渡り、沢筋に進み左折し尾根筋に辿りついた。稜線の烏帽子岩までは急登の連続である。慌てずゆっくり高度を稼いでいくことにした。

写真は帰路のもの・・・



乙女の溪流を渡る・・・

糸滝の遠景



滝見台で一息ついて・・・

水枯れ？の滝・・・

登山開始から 30 数分で滝見台に到着。手元の高度計は 812m。稜線は 1300m を超える標高なので、まだまだ序の口である。滝見台というから滝は何処だろうと思い前方を眺めると、遠くの沢筋に新緑の切れた所に岩場があった。目を凝らして見ると白い筋が確認できる。今は水量が少ないが糸滝といわれる滝であった。

尾根筋のお花畑・・

稜線を見上げると烏帽子岩が天に突き出ている。(あそこまで登るのか?)と気が重く感じられた。でも尾根筋の登山道はヤマツツジや白いタムシバ、足元にはピンクのショウジョウバカマが咲き誇り、尾根筋はお花畑と化していて心癒やされた。

途中、竹の子採りの方に出会ったりして梨木平に辿りついた。高度計は1200mを超えていた。窪地には残雪もあり、そこから水蒸気が立ちのぼっている。この場所はタムシバが多く自生していて、残雪の白さとは違った柔らかい色彩を放っている。小休止して最後の急登に備えた。



ヤマツツジ



タムシバ



ショウジョウバカマ

コース最大の難所??・・

梨木平は稜線まで標高差150m程の位置にある。登山道は稜線に向かって真っ直ぐに伸びている。それが登るほどに勾配が急になっていく。呼吸を整えながらゆっくり登り稜線との距離を縮めていく。稜線直下の所で登山道は左に曲がり、斜面をトラバースしていた。そこを進んでいくと突然、目の前には切り立った岩場が現れ、登山道を示すかのようにロープが張られてある。確かに40数年前も山の内コースを登った筈だが、こんな岩場は記憶にない登路である。この難所に入る前に小休止して気持ちを落ち着けることにした。

休んでいると下の方から物音がし誰かが登ってきた。その姿形から山菜採りに来た人であった。先に道を譲ろうとしたが、彼は「急がないから・・」と遠慮?して休憩の仲間に入っていた。

腰をあげ、岩場のくびれを探しながら足を踏み出し、ロープと柴枝を掴みながら登行し、ようやくのことで烏帽子岩の稜線に飛びでた。



葉山への稜線を歩く・・・

鳥帽子岩から葉山山頂へは標高 1300m級の稜線を歩くことになる。鳥帽子岩から主峰葉山、その先の大僧森小僧森へと続く稜線は馬蹄形を成している。目的の葉山までは約 2.5km 程である。残雪と新緑の稜線そして薄雲りではあるが天気は良好である。谷から吹き上げてくる柔らかい風が頬をなでながら峰を越えていく。これからはアルピニストの醍醐味が味わえる稜線歩きの始まりである。



頂上に連れてって下さい !?..

私達と一緒にになった彼と休憩していた。するとその彼が「頂上まで行くんですか？」と聞いてきた。それで私達が山形県の一等三角点の山を登山していて、今回は葉山頂上にある一等三角点に登ることを話した。すると彼は頂上には行った事がない。独りだと心配だし・・・先週も来たが梨木平で戻っていった。という。そして「一緒について行っていいですか？」という。特に支障もないので「あア、いいですよ」と返答した。かくして飛び入り参加者が加わり 4 名で行動を共にする事となった。時刻は Am10:15。その彼は大石田の方で、建築関係（大工さん？）の仕事をしているとのこと。

稜線は“竹の子”が旬の時期 !?..

改めて 4 名となった「登山隊？」は葉山山頂を目指し歩き始めた。ヤマツツジが満開の見頃を迎えていて、足元にもシラネアオイやミヤマキンバイ等の花々が咲き競っていた。「お花畑」を過ぎて進むと両側には 2m を超す笹竹が自生していた。そんな竹藪に目をやりながら歩くと、案の定“竹の子”が出ていた。親指ほどの太さのある立派な代物である。一握りになったところで、それを大石田の彼にプレゼントすると大喜びで受け取った。



座れない！！、座禅石??..

稜線を歩くこと 45 分で座禅石入口の指導標に辿りついた。同行の好也さんが、指導標の頭部が傷ついているのを見て「これは熊の仕業で、自分の縄張りを誇示するためにしたのだ。」と解説。指導標の左側は座禅石への小径が続いていた。せっかくだから寄り道をすることにした。少し行くとその小径は崖下へと続いている。「おっかねェ、戻ろう・・・」と言う大石田の彼に従って指導標に戻った。簡単には座れない？「座禅石」のようだ。



葉山山頂広場で憩う・・・

座禅石の指導標から少し下り、数分で葉山神社への最後の登りとなる山尻についた。沢筋のような所に登山道が続いていて、雪解けの水が岩を濡らしていた。ここは今までの稜線と違い急登である。その急坂を這い上がると雪渓の上に出た。

雪渓を踏みしめて登ると、やがて雪は姿を消して葉山神社入口についた。が、私達はそこを通過して目的の葉山山頂に向かって歩いていった。

15分程で葉山山頂の指導標に辿り着いた。一等三角点は指導標の右手奥にあった。三角点の周辺は笹が生じた広場になっていた。三角点を目にした先を見ると月山が至近距離に迫って見えた。



急坂を這い上がり雪渓を踏みしめる・・・



山頂指導標

貴祿さえ感じます・・・



一等三角点葉山

この三角点に会いに来たんです・・・

昼食を摂り、エネルギー補給・・・

到着はAm11:45（予定はAm12:00）。出発から4時間15分ではほぼ予定通りの行程である。いやメンバーが頑張っただけで予定通りに歩いてくれたと言うべきであろうか。予定通りにことが進むと心にも余裕が出てくる。この「余裕」がある事は登山において、特に「安全」と直結する重要な事である。予定していた登山日が天候に恵まれた事も「運がいい」としか言いようがない。

そんな想いも馳せながら昼食を摂り、下山のためのエネルギー補給を行っていた。



ゴキゲン!!
ポーズです

月山

見事な月山の残雪が、雲に同化しています・・・



烏帽子岩

座禅石

烏帽子岩方面はガスが流れている・・・

写真、撮らせて・・・

昼食後に大石田の彼に、私達が登っている一等三角点の話をした。そして持っていた「山形県三角点網図」の図面をみせると「写真を撮らせて下さい」と言ってきた。（興味があるのかな??・・・）

Am12:30。下山のため葉山山頂を出発した。指導標を過ぎると葉山の稜線が一望できた。そして戻るべき烏帽子岩が遠くに霞んで見えた。手前の山の山尻には座禅石であろう「岩」が突き出ているのが確認できる。

奥の院に立ち寄り下山・・・

15分程で葉山神社入口に着いた。先ほど通り過ぎていったが葉山神社奥の院に立ち寄ることにした。奥の院の手前には真新しい赤い鳥居が建立されていた。奥の院につき、その裏手（北側）に廻ってみた。すると霞んではいるが素晴らしい新庄盆地の絶景を目のあたりにした。大部分が森林地帯で、川沿いの裾野が日常生活圏になっているようだ。



葉山神社奥の院に参詣し・・・



後ろに廻ると新庄盆地が一望できた・・・

竹の子探しの稜線??

奥の院から山の内コースの指導標まで戻り、雪溪を下る。座禅石の指導標からは再び竹藪の根本に目をやり「竹の子探し」をしながら歩いた。採った竹の子は大石田の彼に渡した。稜線の奥にある烏帽子岩が進ほどに大きく見えてきて励みになった。



真新しい指導標で証拠写真撮る!?!・・・



烏帽子岩

歩くほどに烏帽子岩は大きく見えてくる・・・

最後の難関、急坂の尾根下り・・・

Pm2:00 に烏帽子岩到着。休息し葉山の稜線を振り返る。大石田の彼も満足な顔をして休んでいる。たった4時間前に、彼から「頂上に連れて行って」と頼まれ、今はお互いに目的を達成してここで休んでいる。下山して別れたらもう二度と会うこともないだろう。が、同じ目的で行動した彼との時間は「一期一会」の楽しい山旅となった。



こんな岩場を慎重に下り??・・・



登山口に、無事帰ってきました・・・